京の水探訪

京都に伝わる、天然の水の数々。今回はそんな「名水」を訪ねました。（漆）

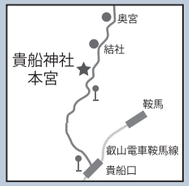
出町柳から叡山電車で向かった先は、水の神を祀る地、貴船神社。そばには川床で有名な貴船川が流れ、周囲はひんやりとした空気に包まれている。そしてその本宮（ごしん）社殿前の石垣からあふれ出ている水が、貴船神社の「御神水（すい）」である。水の神のもとで古くから枯れることなく流れ続けるこの水は、水質も極めて良好とされ、名実共に京都有数の名水として認められている。

参拝を済ませた後、早速御神水を頂くことに。貴船川の流れる音が響き渡る中、そっと御神水を口にすれば冷たい流れが沁みわたる。ゆっくりと心身を清めていく本当の「命の水」に出会えるのは、この地をおいて他にない。

由緒正しき「神の水」　貴船

（上）あふれ出る御神水。お水を頂くためのペットボトルを忘れても、容器が販売されている
（左下）本宮への参道。鮮やかな赤色の春日灯篭が参拝者を迎えてくれる
（右下）鴨川の源流の１つ、貴船川。貴船神社への道に沿って流れ、河畔には料理旅館が立ち並ぶ

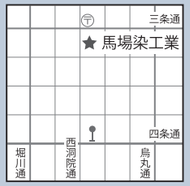
貴船（貴船神社）



9:00-16:30
（開門時間6:00-20:00
時季により変更あり）

叡山電鉄「貴船口」駅より京都バスに乗車。「貴船」下車後徒歩５分

柳水町（りゅうすい）（馬場染工業）



平日9:00-17:00

市バス「四条西洞院」より徒歩５分

水尾

※水質管理などはされていないため、水を飲む場合は自己責任でお願いします。

JR「保津峡」駅より自治体バスに乗車。「嵯峨水尾」下車後徒歩15分

はみだしすてーじ
夏休みまでが長い……
⇒夏休みのほうがもっと長いと思って我慢するのみ。

（医・院　じぃ）
（夏休みは待つものです；編）

京都の町中にも名水はある。「馬場染工業」社の敷地内にある「柳の水」である。現在では美しい黒染めに欠かせない水となっているが、かつては千利休などが茶の湯にも用いたとされるなど飲用にも適している。聞くところによると普段から多くの人が訪れ、なんと近くの料亭の人もわざわざ料理用に汲みにやってくるそうだ。

快く迎えてくださったお店の方に奥の水場へ案内していただき、持参した容器にお水をもらう。とてもまろやかで、多くの人が汲みにくるというのも納得。長きにわたり守られてきた味なのであろう。先人たちが愛したこの水は、何気ない町の一角で今も変わらず京都の文化を育んでいる。

京文化に根ざす町の水　柳水町

（左上）店の外観。町角の風景の中にも歴史あるものが隠れているのは京都の魅力といえる
（右上）かつて使われていた井戸のそばにはこの水の由緒を記した碑が立っている
（下）店の奥に位置する柳の水。隣には蛇口も設置され、ペットボトルに汲む際にはそちらを利用

渓谷の間にたたずむ無人駅「保津峡」からバスに乗り15分、自然に囲まれたのどかな山里、水尾に到着。人通りもまばらな村の道から山を登る林道へ入っていく。すると間もなく、音を立てて流れる水源を見つけることができる。周りを見回せば、山肌の岩陰のいたるところから水が絶えず滴り落ちているのがわかる。

手ですくえばすぐにあふれてしまうほどの豊富な水量。登り坂の疲れから、思わず顔を洗ってのどの渇きを癒す。その味は直接山から湧き出ているとは思えないほど混じりけがない。たとえ訪れる人は少なくても、由緒正しいものでなくても、この水が名水であることに変わりはない。

山中に訪ねる自然の恵み　水尾

（上）村から10分ほど歩くと現れる水場。辺り一面を背の高い杉に囲まれ、遠く川の音も聞こえる
（左下）JR保津峡駅からの景色。川下りを楽しむ人々のほか、まれにトロッコ列車が通ることも
（右下）「柚子の里」としても知られる水尾。民家と柚子畑が広がる風景は山里そのもの

はみだしすてーじ
前期試験「夏休みがほしくばこのワシを倒してゆけ!!」
⇒ラスボスがいました。

（工・２　柑橘系）
（夏休みは勝ち取るものです；編）